

おうちで作成 ネットで申告



「税に関する高校生の作文」 五島市長賞

税で支える図書館

長崎県立 五島南高等学校

三年

宇都宮 泉

一年前、私は五島へと転学してきた。新しい環境に胸を膨らませながらも、慣れない生活に少し緊張していた。そんな私の心を落ち着かせてくれたのが、町に新しくできた五島市立図書館だった。

初めて足を踏み入れたとき、その開放感に目を奪われた。高く伸びる天井は、世界遺産に登録された五島の教会群を思わせるコウモリ天井で、木の温もりがやさしく私を包み込んだ。この天井は、かつて島で数々の教会を築いた鉄川与助らの技術や、島内の業者・素材を生かして作られたと知り、図書館が地域の歴史や文化と深く結びついていることを感じた。

館内の書架の配置にも工夫がある。「知のクルージング」と呼ばれるレイアウトは、「一般書のしま」「児童書のしま」といったまとまりごとに空間が区切られ、それぞれが一つの島のように入り組まれた形になっている。本を探して歩くと、島から島へ渡るような感覚になり、訪れるたびに新たな発見がある。

何気なく通っていた図書館だったが、どのようにしてできたかを知りたくなり調べてみると税金によって建てられたということがわかった。それまで税といえど道路や学校、消防といった施設のために使われるものという漠然とした印象しかなかった。しかし、日常的に利用している図書館が税で支えられていると知り、税が自分の生活と直接繋がっていることを強く実感した。

税は、私たち一人一人が社会を支えるために分かち合うお金だ。それは生活を便利にするだけでなく、地域の歴史や文化を守り、次の世代に受け継ぐためにも使われている。五島市立図書館も、地域の歴史の再興とコミュニケーションの再生を意識して建てられたという。だからこそ、図書館で過ごす時間は本を読むだけの時間でなく、五島の文化に触れ、地域との繋がりを実感する大切なひとときとなっている。もし税がなければ、このような図書館は存在しなかったのかもしれない。新しい土地での生活に慣れるための場所もなく、地域の魅力を知る機会も限られていたはずだ。さらに、この図書館は観光促進や歴史研究の拠点としても活用されており、五島に活気をもたらす原動力にもなっている。税はこうして、私たちの日常だけでなく、地域の未来をも支えているのだ。

将来私が社会人になったとき、働いて得たお金の一部を税として納めることになる。それは義務であると同時に、未来の誰かが安心して学び、集える場所を守り続けるためのバトンになると思う。今、私が図書館で本を読めるのは、過去に誰かが納めた税があったからだというのを忘れず、私も税を通じて社会を支える一員になりたい。

五島に来てから、図書館は私に知識だけでなく地域の歴史や文化、そして税の意味を教えてくれた。これからも本を開くたびに、税の支えに感謝しながら学び続けていきたい。